

入学試験問題出題者からのアドバイス

総合型選抜(興動館選考型・スポーツ実績選考型)

学校推薦型選抜(指定校B・実績評価型・後期指定校)

小論文

高校生に関心が高いと思われるテーマを新聞記事から取り上げ、読解力や自分の意見を論理的に組み立て、論述できるかを評価します。

問題文には、議論の展開やプロセスも記載してありますので、これらに基づいて文章を作り上げるとよいでしょう。

学校推薦型選抜(指定校A・一般公募制)

基礎教養テスト(配点:200点)

文章読解および英語

英語は、文章や会話文についての内容把握が中心となります。文章読解では、漢字の読み書き、四字熟語、同義語、対義語、ことわざ、慣用句や長文の内容把握が中心となります。

令和8年度入学試験から科目名称が変更となりますが、本学の過去の「基礎学力テスト」を参考にし、出題傾向をつかんでください。

一般選抜(1期(3教科型・高得点2教科型)・国公立受験生支援入試・2期)

英語(配点:1期・国公立受験生支援入試=150点 2期=100点)

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ

1期も2期も長文読解、文法、作文、文章構成の問題および対話文が出題されます。出題に際しては高等学校で使用されている最近の標準的な教科書の内容を基準としています。

長文に関する問題では、まとまりのある文章の展開に注意して、特に直読直解的に、要点を的確に読み取ることが問われます。文法の問題では、基本的項目が正しく理解できているか、作文、文章構成、対話文では、日常よく使用される語彙を用いて基本的表現ができるかが問われます。

高等学校で学習することになっている英語の基礎項目を復習して、主として、基本語彙、慣用句表現などを実際に使用できる英語力を身につけるよう努力してください。

国語(配点:1期・国公立受験生支援入試=150点 2期=100点)

現代の国語・言語文化(古文・漢文を除く)

1期・2期ともに、現代文と日本語の使い方全般についての問題が出題されます。特に文章の正確な読み取りと言葉の正しい使い方が求められます。文章全体の論理構成を理解し、キーワードを手がかりにして要旨を的確に把握できるようにしてください。

また、漢字や送り仮名、四字熟語、敬語、慣用句等、言葉の正確な使い方もしっかり勉強しておいてください。

日本史 (配点:1期・国公立受験生支援入試=100点)

歴史総合・日本史探究

- ① 出題範囲は、原則として原始・古代、中世、近世、近代を対象とします(戦後史は除きます)。また政治、外交、社会・経済、文化の各分野から出題するので、教科書を中心に偏りのない学習を心がけてください。
- ② 出題形式については、語句選択問題から文章正誤問題までさまざまなものがあります。また、難易度のバランスにも配慮しつつ出題しています。受験生の皆さんは、歴史用語の暗記にとどまらず、歴史的事実の関連性や時代背景なども考えながら、総合的な学習を心がけてください。
- ③ 教科書に掲載されているような史料・図表などから出題することもあるので、それらの読み取り方にも留意しておいてください。

地理 (配点:1期・国公立受験生支援入試=100点)

地理総合・地理探究

地理総合・地理探究は、現代社会の姿を、地理的な視点や技能を使い、地誌的な事例を通じて、総合的に把握する科目です。普段の学習では、教科書の事例を読み、地図帳、統計図表、写真図版から情報を得る技能をつけ、自然環境と人間生活の問題や産業経済の変化など、現代社会の新しい動き・諸問題への関心を持ちましょう。

試験は、大問Ⅰは自然環境・地域調査・基礎的な地理技能、大問Ⅱは生活・産業・社会・経済、大問Ⅲは世界の諸地域(地誌)、といった分類で出題していますが、地理は一つ一つの事項の「つながり」を重視しているため、教科内容全般にわたって偏りのない学習をすることが大切です。もちろん大学入学共通テスト等一般的な受験問題も練習しておきましょう。

簿記 (配点:1期・国公立受験生支援入試=100点)

簿記

簿記の問題は、次の①～⑥の6つの領域から出題しています。

6つの領域とは、①文章問題(重要語句の穴埋め)と計算問題、②仕訳の問題、③伝票会計(3伝票・5伝票)、④特殊仕訳帳(現金出納帳・当座預金出納帳・売上帳・仕入帳)、⑤本支店会計(未達事項の仕訳・財務諸表の合併)、⑥決算の問題(精算表・決算整理仕訳・P/L・B/Sの作成)のことです。

解答の方法は、語群の中から適切な勘定科目や金額を選択する形式を採用していますが、全体として問題の分量が多いので、迅速に解く能力が必要です。また、③～⑥の領域では、いわゆる推定簿記の形式で出題することもありますので、解答のパターンを暗記するのではなく、複式簿記の本質的な理解を深めるように心掛けてください。

世界史 (配点:1期・国公立受験生支援入試=100点)

歴史総合・世界史探究

世界史の出題においては、時代的には古代・中世・近代・現代と全時代を扱い、地域的にも、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、アフリカ、ヨーロッパ、南北アメリカから、分野的にも政治、経済、社会、文化からと偏りがないように配慮しています。難易度も、一般的な教科書のレベルを超えることはありません。また、断片的な人名や歴史的用語の記憶だけを要求しているわけではなく、歴史的事実のつながりや、因果関係を追求する思考の能力を重視して出題しています。また、日本史との繋がりも重視しています。

まず、教科書を十分に読みこなしたうえで、地域別・テーマ別のノート作りを行って、自分なりの世界史像を描けるようにしてください。

政治・経済 (配点:1期・国公立受験生支援入試=100点)

政治・経済

政治・経済の試験科目にイえることは、諸制度の基本を十分に理解しておくこと、現代社会を扱うことから時事問題への関心を持つことです。具体的には、政治(憲法など)、経済、国際関係の三つの領域をまんべんなく、丹念に教科書を使って勉強してください。

特に政治分野では、民主社会の思想、日本国憲法の原則、日本の政治のしくみなどは最重要のテーマです。また経済分野では、市場価格の働きをはじめ、国内総生産や景気なども含めた日本経済の動き、さらに国際経済の話は最重要のテーマです。教科書に出てくる基本概念と用語を一つ一つ理解してください。

数学 (配点:1期・国公立受験生支援入試=100点 2期=100点)

数学Ⅰ・数学A

素直な問題ですが、適度な計算力と思考力を必要とする問題を出題します。したがって教科書の内容、特に、例題程度の事柄は確実に習得しておいてください。教科書をよく読んで、基本事項の内容はしっかり理解し、教科書の練習問題や章末問題は確実に解けるように演習しておきましょう。

難問・奇問ではなく、基礎的な知識や計算力と基本的な見方・考え方をみる標準的な問題であるよう心がけます。幅広く基礎的な知識を的確にマスターし、確実な計算力を養っておきましょう。計算ミスは致命傷になります。